

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成22年11月18日(2010.11.18)

【公表番号】特表2010-523676(P2010-523676A)

【公表日】平成22年7月15日(2010.7.15)

【年通号数】公開・登録公報2010-028

【出願番号】特願2010-503070(P2010-503070)

【国際特許分類】

A 6 1 K	39/21	(2006.01)
A 6 1 K	9/127	(2006.01)
A 6 1 K	31/685	(2006.01)
A 6 1 K	39/395	(2006.01)
A 6 1 K	31/688	(2006.01)
A 6 1 P	31/18	(2006.01)
A 6 1 P	37/04	(2006.01)
C 0 7 K	7/06	(2006.01)
C 0 7 K	14/155	(2006.01)

【F I】

A 6 1 K	39/21	
A 6 1 K	9/127	
A 6 1 K	31/685	
A 6 1 K	39/395	S
A 6 1 K	31/688	
A 6 1 P	31/18	
A 6 1 P	37/04	
C 0 7 K	7/06	Z N A
C 0 7 K	14/155	

【手続補正書】

【提出日】平成22年9月30日(2010.9.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

H I V を治療するための組成物であって、前記治療を達成するのに十分な量で、H I V 表面上またはH I V 感染細胞表面上の脂質に結合し、そしてそれによつてH I V - 1 を中和する、正常被験体からまたは自己免疫疾患被験体から誘導可能な抗体を含み、前記抗体がC L 1、またはその結合特異性を有する抗体、またはその結合性断片である、前記組成物。

【請求項2】

抗H I V 抗体の産生を誘導するための組成物であつて、前記誘導を達成するのに十分な量で、少なくとも1つのリポソーム - ペプチド・コンジュゲートを含み、前記ペプチドが膜外部近位領域(M P E R)エピトープを含み、そして前記リポソームがリゾホスホリルコリンまたはホスファチジルセリンを含む、前記組成物。

【請求項3】

前記ペプチドが、配列E L D K W A S またはW F N I T N W を含む、請求項2記載の組

成物。

【請求項 4】

前記リポソーム - ペプチド・コンジュゲートがさらに脂質 A を含む、請求項 2 又は 3 記載の組成物。

【請求項 5】

前記リポソーム - ペプチド・コンジュゲートを 2 糖タンパク質 1 の組換えドメイン V と混合する、請求項 2 ないし 4 のいずれか 1 項に記載の組成物。

【請求項 6】

リポソーム中に包埋された M P E R エピトープを含む免疫原であって、前記リポソームがリゾホスホリルコリンまたはホスファチジルセリンを含む、前記免疫原。

【請求項 7】

前記免疫原がさらに脂質 A を含む、請求項 6 記載の免疫原。

【請求項 8】

前記免疫原がさらに、2 糖タンパク質 1 の組換えドメイン V を含む、請求項 6 又は 7 記載の免疫原。

【請求項 9】

H I V - 1 g p 4 1 および M P E R ペプチドの膜貫通ドメインを含む免疫原性コンジュゲートであって、前記 M P E R ペプチドが前記膜貫通ドメインを介してリポソーム中に係留される、前記コンジュゲート。

【請求項 10】

前記リポソームが合成脂質を含む、請求項 9 記載の免疫原性コンジュゲート。

【請求項 11】

前記 M P E R ペプチドが 2 F 5 または 4 E 1 0 モノクローナル抗体のエピトープを含む、請求項 9 又は 10 記載の免疫原性コンジュゲート。

【請求項 12】

患者において免疫応答を誘導するための組成物であって、前記誘導を達成するのに十分な量で、請求項 9 又は 10 記載の前記免疫原性コンジュゲートを含む、前記組成物。